

かみねっちょ新聞

令和2年 7月号

～あなたの知らない飼育員の世界～

『コブとりニーヤン』

むかーし昔ほどではありませんが、去年5月末、ワタボウシパンシエの赤ちゃんが生まれました。名前はニーヤン、気づけばもう一年ちょっと経ち、生まれたときより体はずいぶん大きくなりました（生まれたときの体重は推定 40g ほど、今では 363g）。ただ、困ったことに、大きくなったのは体だけではありませんでした。なんと、あごに傷がで、それが「コブ」のように大きく成長してしまっただのです。



6月

↑生まれてすぐの様子。まだコブはない。



11月

↑生後5か月ごろ、ひとりで動くことも増え、あごに傷ができています。



実はこの「コブ」自体はめずらしいものではありません。今はコブのない兄弟たちも小さい頃は同じようにありました。上手に動けずあごをぶつけている間はコブができ、移動が上手になると徐々に目立たなくなっていくのです。

そういうわけで、成長とともに自然と収まるものだと思っていましたがニーヤンだけは違っていました。コブは小さくなるどころか日に日に大きくなっていったのです！いつになればコブは引くのか、待てど待てど治りません。さすがに大きくなりすぎたので、獣医さんをお願いしてコブを取ってもらうことにしました。変なものが大きくなってないか（腫瘍など）と心配していましたが、特に悪い腫瘍はありませんでした。ただ、ぶつけすぎのせいか、コブまで骨が伸びていました…。こんなことあるのか！？と驚きながらも計2回、コブとり治療を行いました…。

獣医さんの治療のおかげで、コブはずいぶん小さくなりました。しかし、今もあごをぶついたりこすったりしているようで、かさぶたがはげているときがあります。まさかまた大きくなるよな…？と少し心配していますが、今のところ大きくなる気配はありません。このまま落ち着いてくればと飼育員と獣医は願うのでした。

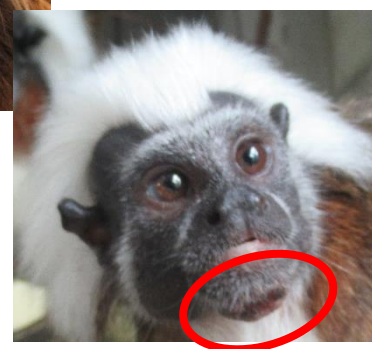
十人十色、皆同じではないと痛感した、ニーヤンのコブ事件でした。ちゃんちゃん。

飼育員 きむら



←治療前
かなり目立つほどの
大きさ…

治療後→
ほとんど目立たなくなりました！



ほくらのうみだより vol.4

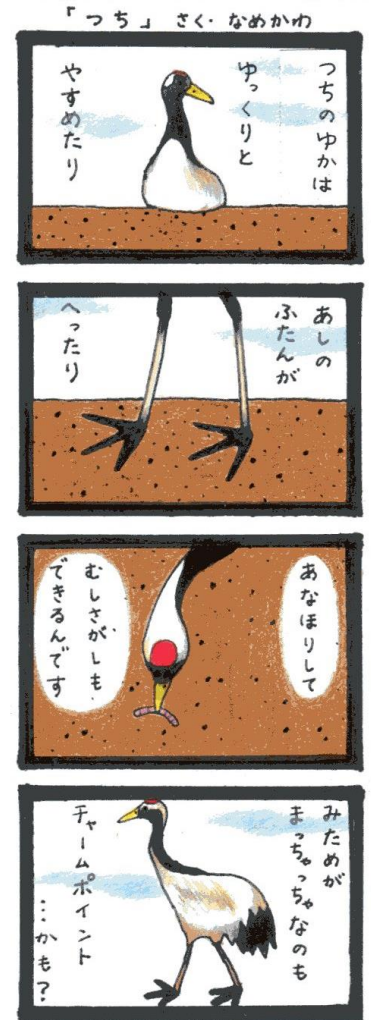
2016年からどうぶつ資料館で始まった、日立の海で捕まえた生き物を展示する日本一小さな水族館「ほくらのうみ」から、オモシロ情報をお届けします！
今回はボクサー顔負けのあいつのお話です！



「シャコ」
エビと同じような見た目
をしているが違う仲間に分
類される。肉食性で前肢の打
撃は目やカニの甲羅をも碎
く威力がある。



夜の海で釣りをしているとエイリアンのような奇妙な生物が釣れました。一見エビのようにも見えますが、ハサミではなく、カマキリの鎌のようなものを持っています。
調べてみるとシャコでした。鎌のような前腕を目にもとまらぬ速さで打ち出し、獲物を捕らえます。バケツに入れていたらパンチで穴を空けてしまいました！



8月の予定

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、8月のイベントは見合わせます。ご理解・ご了承のほどよろしくお願い致します。

詳細はかみね動物園ホームページ <http://www.city.hitachi.lg.jp/zoo/>

または 0294(22)5586 までお問い合わせください



もぐもぐタイムの時間

来園者及び職員の新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため
当面の間、もぐもぐタイムは全て「見学」のみとなります。ご了承ください。
また、はちゅうるいのふれあいタイムも中止となります。



- 11:00 ペンギン
- 11:30 キリン
- 13:00 マンドリル
- 13:30 チンパンジー
ウミウ
- 14:00 カピバラエティハウス
- 14:30 エゾヒグマ
- 15:30 ペンギン
- 16:00 トラ・ライオン



※エゾヒグマのもぐもぐタイムは水曜日はお休みです。

七夕ですわね

動物たちの願いは

なんだろう

